



Title	そのとき、公衆衛生課では：有田市応援にさいして
Author(s)	林, 義緒
Citation	大阪公衆衛生. 1977, 38, p. 43-43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84085
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

そのとき、公衆衛生課では

一有田市応援にさいして一

大阪府衛生部公衆衛生課

保健所係 林 義緒（保健婦）

電話がかかって府庁に出勤したのは、6月19日の日曜日午後3時であった。公衆衛生課には井田課長、岸田衛生部次長など集って相談しておられた。私は電話で「コレラ」と聞いた時、大阪に患者発生!?——と思ったが、「応援」と聞いて心のなごむ思いがした。

けれど、いざ応援体制を組むとなれば、日常業務は手一杯だし、今日は日曜日だし、どうすればいいのだろうと、頭をかかえこんでしまった。井田課長は保健婦一覧表を出して南の方から順に所長や婦長の自宅に電話をかけておられる。次、次と休むひまなくかけて返事を待って、1班の総勢10人が決ったのは午後8時であった。その間に、岸田次長などとも相談して、持参する物品を決め、明日の1班出発者に連絡するのが、私の役目になった。他県で仕事をするには制服があった方がよいと言ったら、日曜日なのにわざわざ保健所まで取りに行かれた人、雨の多い和歌山なので長靴があった方がよいと言ったら、そのために買いに行ってくれた人など、あわてて仕度にかかれた様子が、目に浮ぶような電話でのやりとりであった。

2班、3班では持参物品も整理されたが、はじめは仕事の内容、食事場所、宿泊のことなどわからないので、指頭消毒器、水筒、帽子、ねまきなども持って行くように頼んで、余計な困乱を与えてしまった。

1班には大津課長代理、2班は私、3班は西尾保健所係長が同行して、有田市の様子を見てきた。コレラ騒ぎで乗客の少ない紀勢本線に乗ると、女性のグループ旅行は何事かと切符をうる人も、げげんな顔で見ているとい

った感じであった。

2班からは、電車の中で集合、自己紹介と同時に、1班の仕事の説明をしたり、持参した佐々学著「熱帯病学」のコピーや朝日新聞に掲載された原田微生物課長の「経口伝染病こうして予防」という注意事項を積みながら行ったが、1班は何の用意もなかったので、不安は大きかったと思う。

公衆衛生課では、派遣された保健婦と連絡を取り、不足した物や食物なども途中でとどける方法をとって、無事に検病調査が終るように配慮する雰囲気のみちていて、私も毎日の連絡などで帰宅が9時になることがあっても、快よい疲れであった。

どこの保健所も精一杯の仕事をしているので、突然コレラの応援が入って、人手は減るしコレラ不安の電話や応対はふえるしで、残った人も大変だったと聞いている。

行かれた方も、残った方も本当に御苦労さまでした。



46頁からつづく

スコミ対策を含めて総合的計画がたてられずその場、その場の対処に精いっぱい時間で人力が充分活かされなかったように見うけられたことは、保健婦として今後働らいてゆくえに不測の場合にもいかに能率的に有効な働らきをするか、実践にそくして考えてゆくことの必要性を痛感させられた。